

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400035		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム 蒜山		
所在地	岡山県真庭市蒜山上長田28-1		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心できる居場所づくりの提供」を運営理念とし、グループホーム蒜山では月一回一人ずつに好きなメニューの聞きとりをして希望メニューの提供をする事を目標にしている。チェック表を作成して感想などを記録し、満足度をはかる。又、聞きとりのなかで、ご利用者との関わりを大切にしたい。穏やかな時間を過ごしていきたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400035-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 10 月 30 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

”利用者や家族が安心できる居場所の提供”を理念として、利用者の心地よい環境作りに様々な面から取り組んでいる。利用者の食事の好みを把握して、誕生日の際に提供したり、近隣の方から頂いた旬の野菜や果物を食卓に並べ、四季折々の移り変わりを感じてもらえるように工夫している。玄関に置いてある年間の食事を写真に撮ったファイルには、利用者に楽しく和やかな食事の時間を過ごしてほしいとの想いが表紙に綴られていた。利用者に対する接遇について、年間の達成目標を設定し力を入れており、スピーチロックに対して具体的な代替言葉を掲示して、職員の意識喚起にも努めていた。”利用者の笑顔が何より嬉しく、ゆったりと関わりを持つことができる”と職員が語ってくれたことにも、利用者の環境を、心地よく穏やかになるように、日々目指している様子が窺われた。コロナ禍で、地域交流がままならない中、ボランティアで草刈りや外掃除などを地域の方が行い、環境整備に一役買ってくれ、地域交流プロジェクトの一環となっている。ブログもプロジェクトの一つとして開設した。利用者が心地よく過ごしている姿は、施設内だけでなく、地域一体に広がり(となって)環境作りに努めていたことに表れていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・玄関に掲示・職員個人にカードを配布し確認できる様にしている。	理念は前回の評価を受けて玄関にも掲示し、職員の名前カードに年間目標と達成基準を記入して身に着けている。理念に関するカードは新人研修時に渡している。3ヶ月に1度、品質目標の進捗状況報告書を管理者が作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・なかなかできていないが、今後、取り組んでいきたい。	ボランティアの方に、窓拭き、外掃除や草刈りを手伝って頂いている。町内の回覧板や市の広報誌、有線から町内の情報が入ってくる。近隣の方から野菜(大根や白菜)の差し入れがあり、食品を中心としたリユース品の提供を市の福祉関係に提供している。	地域交流プロジェクトを通して、さらに情報を発信してみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・行事での外出・参加により地域との交流を図っている。(コロナウイルス感染予防対策の為、制限)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回の開催を行い、ご家族・民生委員・市職員の方々から意見を伺い、サービスの向上に活かしている。	民生委員、市の職員、同法人委員長、同法人内介護部・調理部・相談部・看護部の主任、家族代表、利用者が参加し、対面で実施している。苦情、身体拘束、事故報告、入居者状況、行事報告、各部門からの目標の確認を行い、「食事の提供を行い、楽しく過ごしていただく」という目標を掲げた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議において、状況報告・行事報告等を行っている。何かあれば連絡したり、してもらったりしている。	窓口は、主任かケアマネジャーが担当している。更新時には必ず役場へ出向き、face to face の関係が継続されている。空き情報があった場合には、社協と連携が取れている。運営推進会議での報告会で情報交換ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・3ヶ月以内の会議を行い、2回全体会議において研修をしている。身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	【スピーチロックとは?】を事務所の見えるところに貼り、常に意識している。ちょっと待つてに変わる代替の言葉の確認もできている。法人内合同で研修を行い、一人一事例を持ち寄り検討している。日中は玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・3ヶ月以内の会議を行い、2回全体会議において研修をし、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・重要事項説明を行い、理解・納得をしていただいた上で承諾書をもらう様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・サービスに関するアンケート調査を行い、全体会議・GHミーティング・運営推進会議等で報告する。ご用望等については早急に取り組む様になっている。	年1回家族アンケートとケアプラン変更時に意見を聴取し、「いつもありがとう」の感謝の言葉が職員の励みとなった。毎月、手紙と個別の写真、3ヶ月に1度「にこにこ通信」を郵送して、利用者の様子がわかるとの声を頂いている。何かあれば、随時連絡を取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・GHミーティング・個々の面会で意見・提案を出してもらっている。	職員は年1回、主任の面談があり、主任は法人内の施設長との面談を行っている。主任は何かあれば随時、話を聞く場を設けていて、職員は話しやすい雰囲気だと答えていた。Youtubeを使って歌や体操を取り入れたら利用者が大いに喜び、電動ベットの導入で職員の負担が軽減された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・希望休は可能な限り要望に応えている。働きやすい職場環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年1回の「スキルマップ」と「セルフチェックシート」・又日々の介護においてリ力量の把握をし、助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・五月に集まる事ができ、久しぶりに情報交換などができた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・細かい心配りをしながら、何でも言ってもらえる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族と面会し、困り事・要望等、何でも言ってもらえる様な関係性が生まれる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所前調査において、必要な支援を見極めプランの作成をして、ご家族に確認をもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・信頼関係が築き、お互いを深め合う様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族・ご本人との関わりを大切にしながら、共に支え最良の支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの方との交流の継続はなかなか難しいが、馴染みの場所にはドライブに出掛けるようにしている。	面会は玄関で感染対策をした上で、対面式で実施できている。テレビの前にあるソファに腰を掛けて、本を読んで過ごしている。利用者同士が傍にいて、安心感をもたらしている。ゴミ出しや神棚の水替えが日課となっている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者同士の関係性を把握しながら、皆さんが楽しく生活できたり、お互いを思いやる気持ちを大事にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・今まで、その後の支援が必要な方はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご利用者一人ひとりの思いや好きな事の把握に努めている。ミーティングにおいても個別ケアの検討を行い職員間の周知をし、支援している。	入所時調査票を活用し、家族構成、性格、趣味などを確認している。生活の様子を見て、利用者の思いを汲み取っている。発語が少ない方へは、普段の様子から読み取るように工夫している。ミーティングや連絡ノートを活用して情報の共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前の聴き取りやライフスタイルストーリーの活用により把握を行っている。日々の暮らしの中での会話からも生活歴の情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・介護経過記録・日常チェック表の記録により生活状態や体調の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・半年ごとのケア会議・モニタリングを行っている。ご家族からの要望や個別ケア等から、生活の質が向上できる様な作成に努めている。	介護計画は、入居時に暫定プランを立て、何もなければ3ヶ月、6ヶ月毎に見直している。6ヶ月に1回、モニタリングを行い、課題を見つけて短期目標を設定している。プラン変更時にはアセスメント、HDS-Rを活用してプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護経過記録や個別ケア、日々の生活の中での職員間の情報の共有に努め、プランに活かせる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々状況に応じた柔軟な対応に心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアやご家族、馴染みの方々との関係が築けるように思っているが、コロナ禍の為、支援が困難である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・個々にかかりつけ医があり、月1回定期的に往診を受けている。Drとの連携を図る様に心がけている。	かかりつけ医は、入居時に選べるが協力医に全員が転医している。24時間365日対応で安心できる。月1回の往診があり、ドクターとの関係も良好で利用者の安心感に繋がっている。他科は、基本家族対応だが、やむを得ない場合には職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・事業所内の看護職員による週1回の健康チェックをしてもらっている。個々の状態や相談等の細やかな連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・ご家族を交え相談に努めている。入院時には情報の提供を行い、入院中の状態や退院時の情報提供をしてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化された場合は対応しきれない部分がある為、入所前説明により理解をしてもらっている。直面した場合は、ご家族、関係者と共に最善の方法に取り組む様にしていきたい。	看取りは可能だが、特養や入院を希望される方が多い。入居時に「重要事項説明書」にて確認し、重度化した場合には、「重度化した場合における対応にかかわる指針」で再確認し同意を得ている。家族、本人の意向だけでなく、ドクターの意見も参考に、重度化した場合には対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルに沿っての対応をしている。緊急時研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・BCP策定委員会にて対策を行っている。全体会議にて防災研修をし、年2回総合訓練をしている。地域との協力体制も築けている。	年2回、昼夜想定で法人合同で火災・地震訓練を実施し、利用者も一緒に避難できた。連絡網は事務所と個人で保管している。備蓄は、水や食料は台所に3日分程、介護用品は倉庫に保管している。停電に備えて法人内で自家発電ができ、業者とも連携が取れている。	災害対策を今一度見直してみたいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・尊厳を重んじプライバシーを大切に支援に努めている。全体会議においてプライバシー研修を行っている。接遇を意識してご利用者に関わっている。	接遇委員会では、達成目標を掲げている。6項目ある中で、特に「さん」付けで呼ぶことや、声のトーンや笑顔で接することを心掛けている。法人全体会議にて、電話対応や名刺交換の仕方について、再確認の場を設けている。居室に入る際には、一言声を掛けてから入室するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・押しつけの支援にならない様に、ご利用者の思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご利用者のペースに合わせた希望に添った対応に努める様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・着る洋服を一緒に準備したり等の関わりを持ちながら努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みの献立や食べやすく調理する等、配慮をしながら調理にあたっている。	食事は3食手作りで、ほぼ完食。地域の方から頂いた野菜や果物が食卓を彩っている。ゆったりとしたBGMが流れる中、おだやかに食事をしていった。行事食として、お弁当を注文し外出気分が味わえている。誕生日にはケーキと嗜好調査をした上で、バラ寿司やカレーが提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の食事量、水分量が確保できる様支援を行っている。施設内の管理栄養士による訪問、栄養ケア会議で栄養管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の声かけにて口腔の清潔に努めている。ご利用者の状態により介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表にて確認をしながら、声かけを行いご利用者に応じた支援をしている。	排泄チェック表を活用し、タイミングよく声掛けをしているので失敗が減っている。夜間のみポータブルトイレを使用している方もおられる。排泄失敗時には、さりげなく声掛けをして、トイレや居室へ誘導し、自尊心を傷つけないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取や食事、身体を動かす等に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・午後からの入浴になるが、ご利用者の要望に合わせた入浴を行うように努めている。	週3～4回の提供。入浴時間は20～30分程度。入浴を拒否される方へは、人や時間を変えて対応し、決して無理強いはしない。気分を変えるために、入浴剤を使用したら、「綺麗なワインレッドだなー」と好評の声が聞けた。季節湯として、ゆず湯の提供もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ご利用者のその日の状態や習慣を考慮して上で休息をしてもらっている。環境作りや声かけにて安心して休んでもらえる様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・確実に薬の服薬ができる様に支援をしている。状態に変化があった場合は担当医に連絡をし、指示をおおいでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご利用者一人ひとりの好きな事の把握をし、希望に応じた支援を行っている。こちらからも提案しながら、楽しみ、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩・ドライブ等の要望に応え出かけられる様に努めている。花見や紅葉狩りの頃は少し遠出をして楽しんでもらっている。	近隣への散歩や一緒にゴミ出しに行くことで、外気に触れている。外出気分を味わえるように、行事の際には、お弁当を注文している。外出に代わるレクリエーション活動を増やし、リハビリ体操や風船パレー、パズル、脳トレなどを行い気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の管理はできる方がおらず、こちらで管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・その都度対応できる様に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・過ごしやすい空間作りを心がけている。整理・整頓に努め、安心して心安らげる様にしていきたい。	壁面には、各月の1年間の季節を感じる作品が全て飾られていた。立派な梁のある伸びやかな空間で、畳のコーナーやソファもあり、本を読んだり、利用者同士が会話を楽しんでいる姿が見られた。レクリエーション活動では、365歩のマーチに合わせて、楽しそうに手をたたきながら笑顔で過ごしている利用者がいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有スペースのソファ席の座る位置等気の合う人と過ごせる様に配慮している。ゆっくり過ごせる場所の提供をしたいが、スペースが狭いので工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたものや個々の希望の物等で、居心地の良い居室作りに努めている。	備え付けはベッド、エアコン、照明、カーテン、カレンダーで、要望があれば掛け時計を設置している。手編みの作品や職員からの写真付きメッセージカードが飾られていた。夜間の排泄を知らせるために鈴を置いている。安全に考慮した上で、利用者の好みに合わせた家具の配置をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全な環境作りの為、改善箇所等があれば提案し改善や工夫をしている。ご利用者に安全に自立した生活を送ってもらえる様にしていきたい。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				